

## 菅新政権人事についての会頭コメント

党と内閣に中堅議員を積極的に登用し、世代交代を図ることで斬新さをアピールした人事になったが、実力未知数もあり参議院選挙が実質的な菅新政権の信任投票となるだろう。菅首相は、3つの関門「参議院選挙」「普天間基地問題」「民主党代表選」を乗り越えることで、本格政権として認められるだろう。

前政権では政策を決断できない首相の指導力不足や、小沢氏の意向で政府決定が覆る光景を度々見せられてきた。菅新政権がまず取り組むべきは、その反省を踏まえ党運営の透明化による「党内刷新」を図るとともに、財政の健全化、強い経済社会の実現に向けた新成長戦略を遅滞なく実行することだ。

菅新政権には、統治能力とその政策実現能力を発揮するための体制を確立し、国民や産業界の声を政策に反映できる新しい仕組みづくりを期待する。その意味で政策調査会の復活と政調会長の閣僚兼務は、そのための第一歩と受け止め評価したい。

平成22年6月8日  
京都商工会議所  
会頭 立石 義雄